

管炎(MPA)との関連の検討。第34回日本免疫学会(学術集会記録 p284)

20. 屋部登志雄、宮下リサ、八幡真人、八幡信代、Parham P, 土屋尚之、徳永勝士(2004) ヒトNK細胞受容体KIR, LIR多型性と骨髄移植成績への影響。第34回日本免疫学会(学術集会記録 p331)

21. 草生真規雄、深沢徹、平島美賀、守田優子、頭山尚子、土屋尚之、徳永勝士、猪子英俊、橋本博史(2004) 高密度のマイクロサテライトマーカーを用いた1番染色体における全身性エリテマトーデスの疾患感受性遺伝子の解析。第34回日本免疫学会(学術集会記録 p256)

22. 黒木喜美子、白石充典、ラズバラリンダ、土屋尚之、徳永勝士、神田大輔、前

仲勝実(2004) 関節リウマチ(RA) 関連 Leukocyte Immunoglobulin-like Receptor (LIR) 1ハプロタイプの構造・発現解析。第27回日本分子生物学会(抄録集 p995, 3PB-407)

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

表1 HLA-DRB1, DQB1, DPB1, B, C 遺伝子座において顕微鏡的多発血管炎に関連あるいはその傾向を示したアリル、ハプロタイプの陽性率(抗原頻度)

allele/haplotype	MPA		control		odds ratio (95%CI)	P
	(n=50)		(n=77)			
DRB1*0901	25	(50.0)	24	(31.2)	2.21(1.07-4.58)	0.033
DQB1*0303	25	(50.0)	23	(29.9)	2.35(1.13-4.88)	0.022
DPB1*0201	25	(50.0)	30	(39.0)	1.57(0.76-3.21)	0.22
B*15111	4	(8.0)	1	(1.3)	6.61(0.94-46.5)	0.078
Cw*0303	13	(26.0)	12	(16.2)	1.82(0.75-4.36)	0.12
DRB1*0901-DQB1*0303-DPB1*0201	15	(30.0)	10	(13.0)	2.87(1.19-6.91)	0.019

表2 MPA および対照群における KIR 遺伝子陽性率

	MPA			controls		
	+	-	陽性率(%)	+	-	陽性率(%)
2DL1	41	1	97.6	238	1	99.6
2DL2	8	33	19.5	33	206	13.9
2DL3	35	1	97.2	239	0	100.0
2DL4	45	0	100.0	239	0	100.0
2DL5	16	25	39.0	116	122	48.7
2DS1*	12	29	29.3	109	130	45.6
2DS2	8	33	19.5	35	204	14.6
2DS3	2	25	7.4	34	202	14.4
2DS4	28	0	100.0	208	30	87.4
2DS5	11	29	27.5	77	160	32.5
3DL1	42	0	100.0	227	12	95.0
3DL2	30	0	100.0	232	5	97.90
3DL3	41	0	100.0	239	0	100.0
3DS1	14	24	36.8	110	129	46.0

*統計学的有意差には到達しないものの、活性化型 KIR 遺伝子のひとつである KIR2DS1 陽性率の MPA における減少傾向が認められた(odds ratio [OR] 0.49, $P=0.051$, χ^2 -test)。MPA 群では、それぞれの遺伝子座においてタイピングが不可能であった検体を除外した。

表3 抑制型 KIR3DL1, 活性化型 3DS1 遺伝子の有無と、リガンドである HLA-Bw4 エピトープの有無との組み合わせの検討

HLA-Bw4	KIR3DL1	KIR3DS1	MPA (n=38)		controls (n=153)	
+	+	-	17	(44.7)	44	(28.8)
-	+	-	7	(18.4)	39	(25.5)
+	+	+	6	(15.8)	28	(18.3)
-	+	+	8	(21.1)	33	(21.6)
+	-	+	0	(0)	7	(4.6)
-	-	+	0	(0)	2	(1.3)

統計学的有意差には到達しなかったものの、MPA では、抑制型受容体 KIR3DL1 とそのリガンド HLA-Bw4 エピトープを持ち、活性化型受容体 KIR3DS1 を持たない群の増加傾向が認められた (OR 2.01, $P=0.059$, χ^2 -test)。

〔IV〕

平成16年度研究成果に関する
刊行物一覧

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編 集者名	書籍名	出版社名	出版 地	出版 年	ページ
吉田智彦、 尾崎承一	アレルギー疾患、 食物アレルギー、 全身性エリテマト ーデス、関節リウ マチ、HIV 感染 症・後天性免疫不 全症候群（AIDS）		臨床医科学入門	光生館	東京	2004	300- 307
山前正臣、 尾崎承一	その他の症状	竹原和彦、 近藤啓文編	インフォームド コンセントのた めの図説シリー ズ 膠原病 1.全 身性エリテマト ーデス	医薬ジャー ナル社	東京	2004	44-49
永淵裕子、 尾崎承一	血管炎症候群		内科診療 Q&A 39	六法出版 社	東京	2004	110- 113
尾崎承一	Behcet 病	小俣政男・ 金澤一郎・ 北原光夫、 山口徹、 総編集	内科学	医学書院	東京	印刷 中	
福岡利仁、 中林公正	Goodpature 症候群	浦 信行、 柏原直樹、 能谷裕生、 竹内和久	腎臓ナビゲータ ー	メディカ ルレビュー 社	東京・ 大阪	2004	152 -153
中林公正、 本田恒雄	結節性多発動脈炎	竹原和彦、 近藤啓文	インフォームド コンセントのた めの図説シリー ズ その他の膠原病	医療ジャー ナル社	大阪・ 東京	2004	68 -73
小林茂人	血管炎症候群	高久史磨、 北村惣一郎、 猿田亨男、 福井次矢	家庭の医学大全 科	法研	東京	2004	2902
小林茂人	ANCA 関連血管 炎 血管炎症候群	高久史磨、 北村惣一郎、 猿田亨男、 福井次矢	家庭の医学大全 科	法研	東京	2004	2903
小林茂人	高安動脈炎	高久史磨、 北村惣一郎、 猿田亨男、 福井次矢	家庭の医学大全 科	法研	東京	2004	2903
小林茂人	結節性動脈周囲炎	高久史磨、 北村惣一郎、 猿田亨男、 福井次矢	家庭の医学大全 科	法研	東京	2004	2903
小林茂人	ウェゲナー肉芽腫 症	高久史磨、 北村惣一郎、 猿田亨男、 福井次矢	家庭の医学大全 科	法研	東京	2004	

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編 集者名	書籍名	出版社名	出版 地	出版 年	ページ
小林茂人	HLA-B27 関連脊 椎関節疾患	小池隆夫、 住田孝之		診断と治 療社	東京	2004	112- 125
縄田益之、 小林茂人	ウェゲナー肉芽腫 性症	三森経世	リウマチ・膠原 病診療チェック リスト	文光堂	東京	2004	224- 227
小林茂人、 藤井猛士、 池田 真	腸炎に伴う関節炎	越智隆弘、 菊池臣一	New Mook 整形 外科 リウマチ 類縁疾患	金原出版	東京	2004	116- 124
田村直人、 小林茂人	感染性腸疾患後の 反応性関節炎	越智隆弘、 菊池臣一	New Mook 整形 外科 リウマチ 類縁疾患	金原出版	東京	2004	116- 124
津坂憲政	聴力障害・めまい	三森経世	リウマチ・膠原 病診療チェック リスト	文光堂	東京	2004	50-53
津坂憲政、 竹内勤	分子生物学からみ た炎症	浅香正博	21世紀の胃の 炎症学	メジカル レビュー 社	東京	2004	209- 217
湯村和子	ループス腎炎	飯野靖彦、 榎野博史	腎疾患・透析最 新の治療 2005- 2007	南江堂	東京	2004	115- 120
湯村和子	シクロホスファミ ドパルス療法	浦 信行、 柏原直樹、 熊谷祐生	腎臓ナビゲータ ー	メディカ ルレビュー 社	東京	2004	234- 235
吉田雅治	半月体形成腎炎	木村健二郎 富野康日己	講義録 腎臓学	MEDICA L VIEW	東京	2004	190- 195
山田秀裕・ 尾崎承一	血管炎症候群	小池隆夫・住 田孝之	GUIDELINE 膠 原病・リウマチ	診断と治 療社	東京	2005	70-87
宮本正章	自然免疫を応用し た先端医療	マイケル ・ザスロフ	自然免疫	Innate immunity 研究会	東京	2004	121- 132
森下竜一、 浅原孝之	血管新生を使いこ なすには？	重松宏	脈管学	日本脈管 学会事務局	東京	2004	129
牧野寛史、 森下竜一、 荻原俊男	血管新生療法	狩野庄吾	日本内科学会雑 誌	社団法人 日本内科 学会	東京	2004	327- 333
牧野寛史、 森下竜一、 荻原俊男	遺伝子を利用した 血管新生療法	浅田祐士郎、 江頭健輔、 甲斐久史、 古森公浩、 佐田政隆、 室原豊明	心臓ナビゲータ ー	株式会社 メディカ ルレビュー 社	大阪 ・ 東京	2004	252- 253
牧野寛史、 荻原俊男、 森下竜一	遺伝子治療による 血管新生療法	一戸裕子	実験医学	株式会社 羊土社	東京	2004	155- 159

研究成果の刊行に関する一覧表 (和文書籍)

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
橋弥尚孝、東純哉、荻原俊男、森下竜一	HGF 遺伝子治療	藤田勝治	医学のあゆみ	医歯薬出版株式会社	東京	2004	653-658
牧野寛史、荻原俊男、森下竜一	HGF 遺伝子による閉塞性動脈硬化症、バージャー病の治療	寺本民生、岩本愛吉	治療学	ライフサイエンス出版株式会社	東京	2004	91-94
中神啓徳、森下竜一	遺伝子治療の現状と将来	循環器科編集委員会	循環器科	科学評論社	東京	2004	73-76
牧野寛史、荻原俊男、森下竜一、金田安史	肝細胞増殖因子(HGF)の再生医療応用への展望		バイオインダストリー	株式会社シーエムシー出版	東京	2004	12-19
牧野寛史、森下竜一、荻原俊男	遺伝子治療薬		新世代の循環器薬物療法	メジカルビュー社	東京	2004	170-177
牧野寛史、荻原俊男、森下竜一	遺伝子治療		血管不全フロンティア	メディカルレビュー社	大阪・東京	2004	343-347
青木元邦、森下竜一、荻原俊男	末梢性血管疾患に対する遺伝子治療臨床研究		リウマチ病セミナーXV	永井書店	大阪	2004	176-184
牧野寛史、荻原俊男、森下竜一	遺伝子治療		Heart View	メジカルビュー社	東京	2004	81-85
牧野寛史、森下竜一、荻原俊男	遺伝子を利用した血管新生療法	浅田祐士郎、江頭健輔、甲斐久史、古森公浩、佐田政隆、室原豊明	心臓ナビゲーター	メディカルレビュー社	大阪・東京	2004	252-253
牧野寛史、森下竜一、荻原俊男	遺伝子を利用した血管新生療法	浅田祐士郎、江頭健輔、甲斐久史、古森公浩、佐田政隆、室原豊明	心臓ナビゲーター	メディカルレビュー社	大阪・東京	2004	252-253
三和健、森下竜一	サーモグラフィー、レーザードプラ法		Angiology Frontier	株式会社メディカルレビュー	大阪・東京	2004	21-28
牧野寛史、荻原俊男、森下竜一	遺伝子治療による血管新生療法	一戸裕子	実験医学	株式会社羊土社	東京	2004	155-159
青木元邦、森下竜一、荻原俊男	心血管疾患の遺伝子治療の進歩		ヒト疾患モデル	真興社	東京	2004	210-216

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小林靖、石井賢二	高安動脈炎（大動脈炎症候群）	伊藤正敏、遠藤啓吾、畑澤順、福田寛、米倉義晴、石渡喜一	クリニカルPETの最前線	寺田国際事務所・先端医療技術研究所	東京	2004	
居石克夫	血管外膜の役割—動脈硬化と vasa vasorum	野出孝一	血管不全フロントニア	メディカルレビュー社	大阪・東京	2004	61-68
居石克夫	動脈硬化と凝固線溶	平井久丸、押味和夫、坂田洋一	血液の事典	朝倉書店		2004	371-373
知久正明、西上和宏、内藤博昭、盛英三、佐藤英一	画像解析-微小血管造影-再生医療へのブレイクスルー(その革新技術と今後の方向性)		遺伝子医学MOOK 1	メディカルド		2004	223-227
加藤智啓	プロテオミクスと自己免疫疾患研究の進歩		リウマチ科			印刷中	
加藤智啓			内科学 第二版	文光堂	東京	2004	
加藤智啓	シェーグレン症候群への Strategy No. 5			先端医学社	東京	2004	
加藤智啓	遺伝子医学 MOOK 【プロテオミクスで疾患を治せるか】			メディカルドゥ社	大阪	印刷中	
土屋尚之	免疫疾患の疾患感受性遺伝子	山本一彦	シミュレーション内科「リウマチ・アレルギー疾患を探る」	永井書店	大阪	印刷中	

研究成果の刊行に関する一覧表 (英文書籍)

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Morishita R, Aoki M, Hashiya N, Yamasaki K, Kurinami H, Shimizu S, Makino H, Takesya Y, Azuma J, Ogihara T.	Therapeutic angiogenesis using hepatocyte growth factor (HGF).	Ignacio Anegon	Current Gene Therapy.	Bentham Science Publishers LTD.	USA(CA)	2004	199-206

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kawabata D., Tanaka M., Fujita T., Umehara H., Fujita Y., Yoshifuji H., Mimori T. and Ozaki S.	Ameliorative effects of follistatin-related protein/TSC-36 on joint inflammation in a mouse model of arthritides.	Arthritis Rheum	50 (2)	660-668	2004
Kumagai S., Kumada F., Kita T., Morinobu A., Ozaki S., Ishida H., Sano H., Matsubara T and Okumura K.	<i>N-Acetyltransferase 2</i> genotype-related efficacy of sulfasalazine In patients with rheumatoid arthritis.	Pharmaceutical Research	21(2)	324-329	2004
Ito I., Mitsuoka N., Sobajima J., Uesugi H., Ozaki S., Ohya K. and Yoshida M.	Conformational Difference in HMGB1 Proteins of Human Neutrophils and Lymphocytes Revealed by Epitope Mapping of a Monoclonal Antibody.	J. Biochem	136	155-162	2004
Watanabe T., Kubota S., Nagaya M., Ozaki S., Nagafuchi H., Akashi K., Taira Y., Tukikawa S., Oowada S. and Nakano S.	The role of HMGB-1 on the development of necrosis during hepatic ischemia and hepatic ischemia/reperfusion unjury in mice.	J. Surg. Res	124	59-66	2005
Akaogi J., Akasaka N., Yamada H., Hama N., Satoh M., Nichols C. and Ozaki S.:	Intravenous cyclophosphamide therapy in a case with refractory thrombotic microangiopathic hemolytic anemia and SLE.	Clin. Rheumatol			(in press)
Ito G., Ozaki S., Nakagawa M. and Suzuki Y.	Vascular endothelial growth factor plays a key role in osteoclastic bone destruction by cultured rheumatoid synovium.	臨床リウマチ	16	11-19	2004
岡寛、中野弘雅、木俣敬仁、松田隆秀、尾崎承二	シエーグレン症候群の口腔乾燥症状に対するレバミピドの有用性	Progress In Medicine	24(10)	2591-2596	2004
岡寛、木俣敬仁、中野弘雅、清水篤、山本直弘、尾崎承二	関節リウマチの膝関節滑膜炎に対する高分子ヒアルロン酸ナトリウム (スベニール) の効果	Journal of Joint Surgery	23(12)	118-124	2004
尾崎承二	血管炎の分子メカニズム	Molecular Medicine	41(2)	191-198	2004
岡寛、尾崎承二	血管炎症候群	診断と治療	92(2)	289-293	2004
尾崎承二	血管炎症候群。一診断のポイントとベストの治療ガイドライン	内科	93 (2)	265-271	2004
木村健二郎、尾崎承二、横野博史、田口尚、吉田雅治	腎疾患における血管炎の意義を理解する	Nephrology Frontier	3(1)	10-22	2004
尾崎承二、住田孝之、山本一彦	関節リウマチの現状と将来展望	現代医療	36 (3)	610-629	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
尾崎承二	Autoantibodies against cardiac troponin I are responsible for dilated cardiomyopathy in PD-1-deficient mice. 血管炎症候群	分子リウマチ	1 (2)	153	2004
尾崎承二		内科疾患診療マニユアル			(in press)
尾崎承二	寒くなると指先が白くなりしびれる	クリニックQ&A			2004
尾崎承二	スペンヤリストに聞く血管炎の話	デルマ倶楽部			2004
木俣敬仁、岡寛、山本直弘、尾崎承二	発熱・紅斑の再燃症状にミゾリピン (ブレディニン) が有効であったSLEの2例	臨床リウマチ	16 (2)	167-172	2004
Kimura Y, Matsuzawa S, Arimura Y, Soejima A, Nakabayashi K, Yamada A.	Azurocidin-specific ANCA related idiopathic necrotizing crescentic glomerulonephritis	Am J Kidney Dis	43	7~10	2004
Kuroda T, Yoshida Y, Kamie J, Kovalenko P, Nameta M, Fujinaka H, Yaoita E, Endo T, Ishizuka S, Nakabayashi K, Yamada A, Nagasawa T, Yamamoto T	Expression of MMP-9 in mesangial cells and its changes in anti-GBM glomerulonephritis in WKY rats	Clin Exp Nephrol	8	206~215	2004
長田道夫、植野博史、秋草文四郎、今井裕一、北村博史、重松秀一、杉崎徹三、城謙輔、田口尚、中野正明、中林公正、横山仁、山口裕	ループス腎炎病理診断の新しい分類—INS/RPS 2003年改訂分類の要点と診断マニユアル—	日腎誌	46	383-395	2004
福岡利仁、中林公正	特集 ネフローゼ症候群. 原因病態別考察: 膠原病、血管炎	日本臨床	62	1898-1906	2004
吉原 堅、宝亀恵美子、中林公正	血管炎をきたす疾患の鑑別診断と治療 肉芽腫性血管炎をみる疾患	リウマチ科	31	458-467	2004
福岡利仁、中林公正	Goodpasture症候群. 腎臓ナビゲーター (浦 信行、柏原直樹、能谷裕生、竹内和久編)	メデイカルレビュー社		152-153	2004
中林公正、本田恒雄	結節性多発動脈炎. インフォームドコンセントのため の図説シリーズ その他の膠原病 (竹原和彦、近藤啓文編)	医薬ジャーナル社		68-73	2004
福岡利仁、中林公正	抗リン脂質抗体症候群	臨床と研究	81	265-270	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発作者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Akimoto T, Kobayashi S, Tamura N, Ohsawa T, Kawano T, Tanaka M, Hashimoto H.	Risk factors for recurrent thrombosis: prospective study of a cohort of Japanese systemic lupus erythematosus (SLE).	Angiology			in press
Zhong B, Kobayashi S, Ikeda M, Akimoto T, Haruta K, Tamura N, Asakawa J, Tsuda H, Tanaka M, Kawano T, Hashimoto H.	Clinical manifestations of patients with rheumatoid arthritis associated with vasculitis and/or extra-articular lesions, ?h malignant rheumatoid arthritis?h in Japan.				in preparation
Zhong B, Kobayashi S, Ikeda M, Akimoto T, Haruta K, Tamura N, Asakawa J, Tsuda H, Tanaka M, Kawano T, Hashimoto H.	Inhibitory effect of Mizoribine on matrix metalloproteinase-1 and matrix metalloproteinase-3 production by production by synovial fibroblasts and THP-1	Mod Rheumatol			in press
Kobayashi S, Kida I.	Reactive arthritis. Recent advance and clinical manifestations.	Internal Medicine			in Press
小林茂人, 木田一成	薬剤性腎障害	リウマチ科	31	272-277	2004
小林茂人, 木田一成	大動脈炎をきたす疾患	リウマチ科	31	452-457	2004
小林茂人	リウマチ医の役割と家庭医・かかりつけ医との連携	クリニカル プラクティス		828-831	2005
石塚修悟, 小林茂人	炎症マーカー：関節リウマチ	日本臨床	63	306-309	2005
石塚修悟, 小林茂人	IgM-RF. 関節リウマチ	日本臨床	63	318-321	2005
Takeuchi T, Tsuzaka K, Abe T.	Altered expression of the T cell receptor-CD3 complex in systemic lupus erythematosus.	Int Rev Immunol	23	273-291	2004
津坂憲政, 竹内勤	SLE発症前の自己抗体	内科	93	972-973	2004
津坂憲政	SLE患者に認められるTCR ζ 鎖スプライス・ヴァリアントの役割	分子リウマチ	3	183-191	2004
津坂憲政	全身性エリテマトーデス患者T細胞におけるTCR ζ 鎖mRNAスプライス異常	最新医学	59	2165-2178	2004
津坂憲政	SLE T細胞の早期シグナル伝達異常	臨床免疫	42	427-434	2004
Tsuzaka K, Setoyama Y, Yoshimoto K, Shiraishi K, Suzuki K, Abe T, Takeuchi.	A splice variant of the TCR ζ mRNA lacking exon 7 leads to the down-regulation of TCR ζ , the TCR/CD3 complex, and IL-2 production in SLE T cells.	J Immunol	(in press)		2005
Yoshimasu T. et al	Susceptibility of TCR α chain knockout mice to ultraviolet B light and flucouracil : a novel model for drug-induced cutaneous lupus erythematosus.	Clin Exp Immunol	136	245-254	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ohtani T. et al	Digital gangrene associated with idiopathic hyper eosinophilia : treatment with allogeneic cultured dermal substitute (cps)	Eur J Dermatol	14	168-171	2004
Yamamoto Y et al.	Effects of phenol peeling on dermal endothelial cells.	J Dermatol Sci	35	158-161	2004
Yumura W, Saganuma S, Nitta K, Sano Y, Uchida K, Nihei H.	Prolonged membranous lupus nephritis with change of anti-ssDNA antibody titer and repeated renal relapse	Clin Exp Nephrol	8(4)	363-368	2004
Tanaka H, Nakahata T, Tsugawa K, Tsuruga K, Yumura W, Ito E.	Mizolibine pulse therapy for patients with flares of lupus nephritis : a 1-year observation.	Clin Nephrol	62(2)	165-166	2004
Nitta K, Akiba T, Uchida K, Otsubo S, Otsubo Y, Takei T, Ogawa T, Yumura W, Nihei H.	Left ventricular hypertrophy is associated with arterial stiffness and vascular calcification in hemodialysis patients.	Hypertens Res	27(1)	47-52	2004
Otsubo Y, Nitta K, Uchida K, Yumura W, Nihei H.	Comparison of serum concentrations of cystatin versus creatinine in patients with IgA nephropathy.	J TW MU	74(5)	256-263	2004
Nitta K, Akiba T, Uchida K, Otsubo S, Takei T, Yumura W, Nihei H.	Serum osteoprotegerin levels and the extent of vascular calcification in haemodialysis patients	Nephrol Dial Transplant	19(7)	1886-1889	2004
Moriyama T, Honda K, Nitta K, Yumura W, Nihei H.	The effectiveness of steroid therapy for patients with advanced IgA nephropathy and impaired renal function.	Clin Exp Nephrol	8(3)	237-242	2004
Moriyama T, Nitta K, Uchida K, Yumura W, Nihei H.	Clinicopathological factor that affect the therapeutic benefits of inhibitors of the renin angiotensin system in patients with IgA nephropathy	J TW MU	74(11)	24-33	2004
菅沼信也, 湯村和子, 内田啓子, 新田孝作, 二瓶 宏.	膜性ループス腎炎の臨床病理学的検討	東女医大誌	72	680-689	2004
菅沼信也, 湯村和子, 内田啓子, 鈴木啓子, 内藤順代, 小池美菜子, 川島 朗, 新田孝作, 秋葉 隆, 二瓶 宏.	全身性エリテマトーデス患者の血液透析導入時の特徴—慢性糸球体腎炎患者との比較—	透析会誌	37(9)	1789-1796	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
二瓶 宏、新田孝作、 湯村和子。	序：ネフローゼ症候群の歴史	日本臨床	62(10)	1773-1776	2004
湯村和子、新田孝作、 二瓶 宏。	IgA腎症ならびに顕微鏡的血尿を認める高血圧患者 に対してL型およびT型Caチャネル拮抗作用を有す るCa拮抗薬(塩酸ベニジピン)を10年以上継続投与 した降圧治療の検討	Therapeutic Res	25(8)	1731-1739	2004
湯村和子、菅沼信也、 小島史子、佐野淑江、 小池美菜子、内田啓子、 新田孝作、二瓶 宏。	ループス腎炎における急速な腎機能低下の診かた	腎と透析	56(3)	345-348	2004
湯村和子。	腎機能障害とループ利尿剤	ドクターサロン	48(12)	886-891	2004
湯村和子、菅沼信也、 内藤順代、板橋美津世、 小池美菜子、二瓶 宏。	腎疾患と免疫抑制薬	クリニカ	31(5)	344-350	2004
湯村和子。	ループス腎炎	腎と透析	56(5)	616-620	2004
湯村和子。	ループス腎炎と関連分子	腎と透析	57(6)	799-804	2004
片山雅夫、吉田俊治	副腎皮質ステロイド薬	Current Therapy	22	23-27	2004
深谷修作、小松人千代、 吉田俊治	膠原病/血管炎に伴う肺高血圧症	Heart View	8:747-752	747-752	2004
加藤賢一、吉田俊治	ステロイド剤の一般療法とパルス療法	臨床と研究	81:743-746	743-746	2004
吉田俊治	MCTDに合併する肺高血圧症	リウマチ科	31:600-605	600-605	2004
鏑木淳一、桑名正隆 吉田俊治	SLE・SLE 疑診例におけるループスア Schonberg ント測定の意味	日本医事新報	4208:25-28	25-28	2004
高田裕子、吉田俊治	中毒/Aレルギー/炎症性浮腫	日本臨床	63:113-116	113-116	2005
吉田秀雄、吉田俊治	関節リウマチの爪/皮膚病変	日本臨床増刊号1	63:225-228	225-228	2005
加藤浩二、大竹智子、 浅野純一郎、西野 譲、 吉田俊治	関節リウマチの全人的医療	日本臨床増刊号1	63:641-643	641-643	2005
吉田雅治	総説「腎臓」：腎血管炎の病態と臨床 —ルー プス腎炎, ANCA関連血管炎を中心として—	J, Clin Immunol	27	137-144	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
吉田雅治	Wegener (ウェゲナー) 肉芽腫症	臨床看護	第30巻第6号	954-958	2004
吉田雅治	ANCA関連血管炎にみられる腎病変の病態と治療	リウマチ科	31 (3)	234-240	2004
吉田雅治	ANCA関連血管炎の免疫抑制療法下日和見感染症の早期診断, 治療における抗β-グルカン抗体の有用性	リウマチ科	31 (1)	75-81	2004
吉田雅治	抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎をめぐる研究の進歩	呼吸器科	5 (3)	295-302	2004
吉田雅治	抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 陽性を示す疾患の鑑別診断と治療.	リウマチ科	31 (5)	468-478	2004
吉田雅治	ANCA関連血管炎の病態生理と治療	Medical Practice	Vol. 21/ no. 5	735-741	2004
山田秀裕	免疫抑制薬の基礎と臨床: シクロホスファミドとアサチオプリン	最新医学	第60巻3号	362-70	2005
國原 孝, 若狭 哲, 松崎賢司, 椎谷紀彦, 窪田武浩, 村下十志文, 安田慶秀	高安静脈炎に対する外科治療成績	脈管学	44	363-374	2004
Kentaro Okamatsu	Elevated troponin T levels and lesion characteristics in non-ST-elevation acute coronary syndromes.	Circulation	109(4)	465-470	2004
Yasushi Mityauchi	Successful radiofrequency catheter ablation of an anteroseptal (superoparaseptal) atrioventricular accessory pathway from the left ventricular outflow tract. Pacing	Clin Electrophysiol.	27(5)	668-670	2004
Koichi Akutsu	Effects of the patent false lumen on the long-term outcome of type B acute aortic dissection.	Eur J Cardiothorac Surg.	26(2)	359-366	2004
Takeshi Yamamoto	Differences in the clinical course of acute massive and submassive pulmonary embolism	Circ J.	68(11)	988-992	2004
Masaaki Miyamoto	Therapeutic angiogenesis by autologous bone marrow cell implantation in refractory chronic peripheral arterial disease using assessment of neovascularization by ^{99m} Tc-Tetrofosmin (TF) perfusion scintigraphy	Cell Transplant	13	429-437	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakagami H, Morishita R, Nishikawa T, Shimizu H, Iguchi S, Matsumoto K, Nakamura T, Kaneda Y, Ogihara T.	Lack of association between the hepatocyte growth factor receptor, c-met, and the anti-apoptotic action of bag-1 in endothelial cells.	Hypertension Research	May;27(5)	359-365.	2004
Yamasaki K, Aoki M, Makino H, Hashiya N, Shimizu H, Ohishi M, Ogihara T, Morishita R.	Effect of nifedipine on endothelial function in normotensive smokers: potential contribution of increase in circulating hepatocyte growth factor.	Journal Human Hypertension.	Oct;18(10)	701-705.	2004
Matsuki A, Yamamoto S, Nakagami H, Aoki M, Tamai K, Matsumoto K, Nakamura T, Ogihara T, Kaneda Y, Morishita R.	No influence of tumor growth by intramuscular injection of hepatocyte growth factor plasmid DNA: safety evaluation of therapeutic angiogenesis gene therapy in mice.	Biochemical and Biophysical Research Communications	Feb 27;315(1)	59-65	2004
Makino H, Aoki M, Hashiya N, Yamasaki K, Hiraoka K, Shimizu H, Azuma J, Kurinami H, Ogihara T, Morishita R.	Increase in peripheral blood flow by intravenous administration of prostaglandin E1 in patients with peripheral arterial disease, accompanied by up-regulation of hepatocyte growth factor. Increase in peripheral blood flow by intravenous administration of prostaglandin E1 in patients with peripheral arterial disease, accompanied by up-regulation of hepatocyte growth factor.	Hypertension Research.	Feb;27(2)	85-91	2004
Shimamura M, Sato N, Oshima K, Aoki M, Kurinami H, Waguri S, Uchiyama Y, Ogihara T, Kaneda Y, Morishita R.	Novel therapeutic strategy to treat brain ischemia: overexpression of hepatocyte growth factor gene reduced ischemic injury without cerebral edema in rat model.	Circulation.	Jan 27;109(3)	424-431. Epub Jan 05. 2004	2004
小林 靖	高安動脈炎	Bio Clinica	18(13)	1148-1152	2004
小林 靖	高安動脈炎 (大動脈炎症候群)	Angiology	3(3)	203-208	2004
Kobayashi Y et al.	Aortic wall inflammation due to Takayasu arteritis imaged with ¹⁸ F-FDG positron emission tomography co-registered with enhanced computed tomography	The Journal of Nuclear Medicine	In press		2005

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tsuchikawa T, Ikeda H, Kikuchi K, Tsuji T, Baba T, Ishizu A, Tanaka Y, Kato H, Yoshiki T.	Hematopoietic progenitor cells as possible origins of epithelial thymoma in a human T lymphocyte virus type I pX gene transgenic rat model.	Lab Invest	84 (2)	245-252	2004
Miyatake Y, Ikeda H, Michimata R, Koizumi S, Ishizu A, Nishimura N, Yoshiki T.	Differential modulation of gene expression among rat tissues with warm ischemia.	Exp Mol Pathol	77 (3)	222-230	2004
Abe A, Ishizu A, Ikeda H, Hayase H, Tsuji T, Miyatake Y, Tsuji M, Fugo K, Sugaya T, Higuchi M, Matsuno T, Yoshiki T.	Bone marrow cells carrying the env-pX transgene play a role in the severity but not prolongation of arthritis in human T-cell leukemia virus type-I transgenic rats: a possible role of articular tissues carrying the transgene in the prolongation of arthritis.	Int J Exp Pathol	85 (4)	191-200	2004
Yamamoto Y, Ishizu A, Ikeda H, Otsuka N, Yoshiki T.	Dexamethasone increased plasminogen activator inhibitor-1 expression on human umbilical vein endothelial cells: an additive effect to tumor necrosis factor- α .	Pathobiology	71 (6)	295-301	2004
Takada M, Tada M, Tamoto E, Kawakami A, Murakawa K, Shindoh G, Teramoto K, Matsunaga A, Komuro K, Kanai M, Fujiwara Y, Shirata K, Nishimura N, Miyamoto M, Okushiba S, Kondo S, Hamada J, Katoh H, Yoshiki T, Moriuchi T.	Prediction of lymph node metastasis by analysis of gene expression profiles in non-small cell lung cancer.	J Surg Res	122 (1)	61-69	2004
Murakawa K, Tada M, Takada M, Tamoto E, Shindoh G, Teramoto K, Matsunaga A, Komuro K, Kanai M, Kawakami A, Fujiwara Y, Kobayashi N, Shirata K, Nishimura N, Okushiba S, Kondo S, Hamada J, Katoh H, Yoshiki T, Moriuchi T.	Prediction of lymph node metastasis and perineural invasion of biliary tract cancer by selected features from cDNA array data.	J Surg Res	122 (2)	184-194	2004
Tamoto E, Tada M, Murakawa K, Takada M, Shindo G, Teramoto K, Matsunaga A, Komuro K, Kanai M, Kawakami A, Fujiwara Y, Kobayashi N, Shirata K, Nishimura N, Okushiba S, Kondo S, Hamada J, Yoshiki T, Moriuchi T, Katoh H.	Gene-expression profile changes correlated with tumor progression and lymph node metastasis in esophageal cancer.	Clin Cancer Res	10 (11)	3629-3638	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ohtani K, Egashira K, Hiasa K, Zhao Q, Kitamoto S, Ishibashi M, Usui M, Inoue S, Yonemitsu Y, Sueishi K, Sata M, Shibuya M, Sunagawa K	Blockade of Vascular Endothelial Growth Factor Suppresses Experimental Restenosis After Intraluminal Injury by Inhibiting Recruitment of Monocyte Lineage Cells	Circulation	110(16)	2444-2452	2004
Nakamura K, Nakahara C, Kuga H, Yamanaka N, Tasaki A, Nakashima H, Kubo M, Morisaki T, Fujii H, Sueishi K, Tanaka M, Katano M	Novel Histoculture Drug Response Assay with a Simulated Microgravity Culture System	Preclinica	2(5)	2-8	2004
Matsuo Y, Hashimoto S, Koga T, Yonemitsu Y, Yoshino I, Sugimachi K, Honda H, Masuda K, Sueishi K	Growth pattern correlates with the distribution of basement membrane and prognosis in lung adenocarcinoma	Path Res Pract	200	517-529	2004
Tsutsumi N, Yonemitsu Y, Shikada Y, Onimaru M, Tani M, Okano S, Kaneko K, Hasegawa M, Hashizume M, Maehara Y, Sueishi K	Essential Role of PDGFR α -p70S6K Signaling in Mesenchymal Cells During Therapeutic and Tumor Angiogenesis in Vivo : Role of PDGFR α During Angiogenesis	Circulation Research	94	1186-1194	2004
Abe K, Shimokawa H, Morikawa K, Uwatoku T, Oi K, Matsumoto Y, Hattori T, Nakashima Y, Kaibuchi K, Sueishi K, Takeshita K	Long-Term Treatment with a Rho-Kinase Inhibitor Improves Monocrotaline-Induced Fatal Pulmonary Hypertension in Rats	Circulation Research	94	385-393	2004
Nakatani K, Fujii H, Hasegawa H, Terada M, Arita N, Ito MR, Ono M, Takahashi S, Saiga K, Yoshimoto S, Iwano M, Shiiki H, Saito Y, Nose M.	Endothelial adhesion molecules in glomerular lesions: association with their severity and diversity in lupus models	Kidney Int	65	1290-300	2004
Okamoto M, Takagi M, Kutsuna M, Hara Y, Nishihara M, Zhang MC, Matsuda T, Sakanaka M, Okamoto S, Nose M, Ohashi Y	High expression of interleukin-1 β in the corneal epithelium of MRL/lpr mice is under the control of their genetic background	Clin Exp Immunol	136	239-244	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Morito N, Yoh K, Hirayama A, Itoh K, Nose M, Koyama A, Yamamoto M, Takahashi S.	Nrf2 deficiency improves autoimmune nephritis caused by the fas mutation <i>lpr</i> .	Kidney Int	65	1703-13	2004
Takasawa N, Munakata Y, Ishii KK, Takahashi Y, Takahashi M, Fu Y, Ishii T, Fujii H, Saito T, Takano H, Noda T, Suzuki M, Nose M, Zolla-Patzner S, Sasaki T.	Human parvovirus B19 transgenic mice become susceptible to polyarthritis.	J Immunol	173	4675-83	2004
Oishi H, Miyazaki T, Mizuki S, Kamogawa J, Lu L-M, Tsubaki T, Arita N, Ono M, Yamamoto H, <u>Nose M.</u>	Accelerating effect of an MRL gene locus on the severity and onset of arthropathy in DBA/1 mice.	Arthritis Rheum			in press
<u>熊勢真人</u>	動物モデルをどのようにヒトの疾患に応用するか	Molecular Medicine	41	157-162	2004
<u>熊勢真人</u> , 鴨川淳二	<i>lpr</i> マウスに見られる関節炎のその遺伝子	分子リウマチ	1	293-301	2004
知久正明, 西上和宏, 林富貴雄, 荻野均, 松田均, 湊谷謙司, 佐々木啓明, 中谷武嗣, 田口明彦, 宮田茂樹, 亀井政孝, 田中良一, 盛英三, 友池仁暢, 宮武邦夫	パージャ一病の難治性潰瘍に対する骨髄細胞移植の治療効果	脈管学	44	191-197	2004
知久正明, 西上和宏, 盛英三, 河合敏明, 望月亮	病院設置型微小血管造影装置の開発と臨床応用の可能性	血管医学	5	17-25	2004
知久正明, 西上和宏	特集/末梢血管疾患: 最近の展開: 末梢動脈閉塞性疾患-検査のポイント	循環器科	56	22-29	2004
N Tokunaga, N Nagaya, M Shirai, E Tanaka, H Ueda, M Shiba, M Kanda, T Ito, W Shimizu, Y Tabata, M Uematsu, K Nishigami, S Sano, K Kangawa, H Mori.	Adrenomedullin gene transfer induces therapeutic angiogenesis in a rabbit model of chronic hindlimb ischemia: Benefits of a novel nonviral vector, gelatin.	Circulation	109	526-531	2004

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
T. Oharaseki, Y. Kameoka, F. Kura, A.S. Persad, K. Suzuki, S. Naoc.	Susceptibility loci to coronary arteritis in animal model of Kawasaki disease induced with <i>Candida albicans</i> -derived substances.	Microbiol.Immunol.	in press.		
Hoshino, K. Fujioka, T. Oku, S. Nakayama, M. Suga, Y. Yamaguchi, K. Suzuki, K., M. Yasuhara, K. Yamamoto	Quantum dots targeted to the assigned organelle in living cells	Microbiol. Immunol.	48	985-994	2004
Hoshino, K. Fujioka, T. Oku, M. Suga, Y.F. Sasaki, T. Ohta, M. Yasuhara, K. Suzuki, and A. K. Yamamoto.	Physicochemical Properties and Cellular Toxicity of Nanocrystal Quantum Dots Depend on Their Surface Modification	Nanolett	4	2163-2169	2004
N. Nagai-Miura, Y. Shingo, Y. Adachi, A. Ishida-Okawara, T. Oharaseki, K. Takahashi, S. Naoc, K. Suzuki and N. Ohno.	Induction of Coronary Arteritis with Administration of CAWS (<i>Candida albicans</i> Water-Soluble Fraction) Depending on Mouse Strains.	Immunopharmacol. Immunotoxicol.	26	527-543	2004
K. Suzuki, E. Muso and W. Nauseef.	Contribution of Peroxidases in Host-defense, Diseases and Cellular Functions.	Jpn. J. Infect. Dis.	57	S1-2	2004
K. Suzuki and T. Okazaki.	Contribution of myeloperoxidase in vasculitis development	Jpn. J. Infect. Dis.	57	S2-3	2004
Y. Kameoka, A. S. Persad and K. Suzuki.	Genomic variations in myeloperoxidase gene in the Japanese population.	Jpn. J. Infect. Dis.	57	S12-13	2004
Y. Aratani, F. Kura, H. Watanabe, H. Akagawa, Y. Takano, K. Suzuki, M.C. Dinauer, N. Maeda, and H. Koyama.	In vivo role of myeloperoxidase for the host defense.	Jpn. J. Infect. Dis.	57	S15	2004
E. Muso, T. Ito-Ihara, T. Ono, E. Imai, K. Yamagata, A. Akamatsu, K. Suzuki,	Intravenous immunoglobulin (IVIg) therapy in MPO-ANCA related polyangiitis with rapidly progressive glomerulonephritis in Japan	Jpn. J. Infect. Dis.	57	S17-18	2004
Shiohara A, Hoshino A, Hanaki K, Suzuki K, and Yamamoto K.	On the cyto-toxicity caused by quantum dots.	Microbiol.Immunol.	48	669-676	2004.